

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第4回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」（公開）

3 開催日時

平成30年9月27日（木） 午後6時25分から午後7時19分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、伊藤善一、尾崎祐三、加藤与三郎、佐藤 功、二野 浩、保坂真由美、山田宏文、横尾彰平

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・池内委員を除く11名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：伊藤委員、尾崎委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

— 次第3議題（1）自主的審議事項「三郷区の人口減少について」 —

【山口会長】

次第3議題（1）「自主的審議事項『三郷区の人口減少について』」に入る。

8月28日に実施した三郷区の人口動態をテーマにした委員研修の結果を振り返りながら、全体で意見交換をしていきたい。その結果をもとに、今後自主的審議をどのように進めるか協議したい。

このことについて、質疑を求めるがなし。

このとおりに進めることを諮り、委員全員の了承を得る。

資料について事務局に説明を求める。

【小林主任】

資料No.1、2について説明。

【山口会長】

資料をもとに意見交換する。資料No.1の他の班の結果等資料を見て気付いたこと、あるいは委員研修後新たに思いついたこと、あるいは研修当日に言い忘れたことや改めて重要だと感じたこと、それと当日欠席された方からは事前に送付した研修資料や本日の会議資料を読んで感じたことなどについて、意見を述べてほしい。前回の研修会と同じ意見でもよいし、資料を掘り下げた感想でもよい。

新聞のコラムの事例を紹介する。9月23日号のコラムに、定年間近の退職予定者を対象としたライフプランセミナーが、ある会社で開催された、というのが載っていた。抜粋すると、定年退職後に田舎暮らしを始める夫婦の映像が流れ、豊かな自然に囲まれた簡素な風景が人間の営みに大切だと感じる、しかし田舎に戻ろうと考えると生計が優先する、上越市は介護保険料が高い、など色々書いてあった。根本的には、都会で暮らす若い人がふるさとに戻る時の就職先の確保や、様々な負担を軽くする魅力ある市町村の施策が問われる、すでに首都圏の若い夫婦は町を選んでいる、とあった。三郷区でも、そのようなことが一つのテーマになってくるのか。

これは全国的な課題。国を挙げてとなると、法改正も必要になってくるだろう。

また、9月25日号のコラムでは、町内の防災訓練に参加した、それは当たり前にあること。しかし、単独で防災訓練等が行えない町内もある、とあった。人口減少により担い手やリーダーがいなくなっている。委員の中にも関係する方がいるが、防災士会で今年30日に会議をするようなので、参考にしてほしい。コラムの最後に、居住地域の特性を知る、特にこういった町内行事に参加することでかなりの知識が得られる、どれもないがしろにできない、その地域の特性を知らないと何もできない、とあった。上越市内でも地域活性化を学ぶ勉強会等が開催されている。そこでは、今回の委員研修と同じことを話し合っている。地域に存在する魅力を話し合い、食、健康、自然、環境、地域の人との繋がりなど、その地域が自慢できるものを生かすことを考える、地域住民が地域の魅力を語るからこそ地域が元気になる秘訣である、自慢できることが生活満足感に繋がると感じた、と締めていた。

【尾崎委員】

会長が話したコラムについては、私も見た。私が今勤めているところの広報誌の10月号には、大島区の古民家での民宿の話も取り上げているため、手元に届いたら見てほしい。

研修の感想で保坂副会長から、「三郷の良さを実感している。私たちの中でできることを一つでも取り組むことができたらいい。」とあった。話が大き過ぎるため、身近なことで何かできるものを積み上げていった方がよい。コミュニティ誌のような地域の特性を生かしたPR誌の活用や、空き家の情報など、色々案が出ている。それをより具体化して、実践方法を見つけていくのがよい。色々話が出てもなかなか前に進まないため、やってみるのが大事だと思う。

【伊藤委員】

話の内容が大き過ぎるため、なかなかこの12人では難しいと思う。可能なら、同じ問題を抱えているところに、どのような取組をしているかなどを色々聞けば、他の考え方も見えてくると思う。そのような勉強会などがあってもよい。

【山口会長】

三郷区のことだけでなく、他の地域のことも参考にするというのは非常によいこと。先日の研修でも話があったが、今から地道にやっておけば、20年後、30年後に

効果が出ると思うため、決して無駄にはならないと思う。毎年5人ずつ増えるような策があれば、資料No.2のとおり安定化するのだろうと思う。ピークが1,300人とすれば、だいたい100人の縮小で抑えられる。各町内で、子どもたちがUターンIターンで帰って来るという話を聞く。それにより人口が増える。空き家の活用もよいと思う。

【加藤委員】

まず、この問題が大き過ぎる。

住宅地をどうするか、空き地をどうするか、空き家をどうするかなどの問題があるが、それに精通したアドバイザーのような人を交えて討論すれば、何か糸口が見つかるのではないか。

【山口会長】

先日の委員研修のようなことを、さらに議論していく中でもう1回やればよいということか。

【加藤委員】

地域の中でそのような人がいれば。

【山口会長】

よい方はいるのか。

【加藤委員】

分からない。

【山口会長】

そのようなこともよいかもしれない。地域のことが分かる。

【佐藤委員】

当日欠席した。資料を見たが、意見は皆さんだいたい同じだろう。

最近他の町内で、空き地に家を建てているところもある。この町内に家や空き地があることを、皆さんどのように調べて来られているのか。うちの町内で空き地があるとアピールしているところがあるのか。それからすると、空き地や空き家について取り組むのが良い。ただ募集しただけでは、色々な方が来て問題を起こすこともあるため、懸案もあるだろう。そういったところをどのようにアピールできるか、どのようにしていったらよいかを考えると、町内の空き地や空き家を有効に活用し

てもらえる。東稲塚で今1軒新築されており、このあいだ地鎮祭をしている時にたまたま通りかかったが、父親、母親と子どもが1人か2人いた。それで4人という形になる。例えば、うちの町内はここに空き地がある、空き家があるということ、どのような形がよいか分からないが、アピールして宣伝していけば、繋がっていくと思う。そういったところから一步一步やっていく。この地区はこのようなことがあるとアピールすれば、「行ってみようか」となるのでは。そのようなことも、もっと大胆にやっていけたらよい。

【二野委員】

委員研修は欠席した。資料を一読したが、毎回同じような意見だと感じている。三郷地区の魅力発信や、空き地、空き家をどうするか。上越市の人口は、全国一緒だが、基本的に下がっているのは目に見えている。これを三郷地区だけ増やすための対策というか、どのような構想を練れば来てもらえるか、というのが今の話だと思う。例えば近隣では、稲増地区や武士地区で団地ができ、当然人口も増えている。ある不動産屋の社長から聞いたが、旧高田市の方々がそちらへ出てきている。板倉区や清里区からは少なかった。そのため、上越市全体としては増えているわけではない。稲増地区が一番よい例。豊原小学校もどんどん増えている。人口、イコール子どもの数も増え、学校の児童数が多い、一番よいお手本。その辺を聞けるのであれば聞いてみたい。そして、そのようなことを三郷地区でもできるのであれば、すればよい。以前にも話があったが、農地を宅地にするのが面倒で時間も非常にかかるため、もう少し簡単にできれば、という意見があった。そのようなことも考えていかなければいけない。

個人的な話だが、うちの息子たちが今年の12月に入ってくる。夫婦2人、子ども3人なので、5人増える。新しい方々が入るのもよいが、子どもたちが近くのアパートにいるという方が結構いる。そのような方を呼び寄せるという方法もあるのではないかと。就職先など色々問題が出てくるが、それはそれで。遠くから来るのではなく、近くのアパートに住んでいる方々が戻れば、かなり違ってくると思う。

【保坂真由美委員】

就職口がないというのが問題。私たちもそうだが、就職先があって初めてこちらに来た。通勤の便がよいなど、色々な利点があって来るのではないかと。企業によっ

ては単身赴任など色々あり、家族全員で1戸建てに来るのか、それとも1人だけで来るのかという面もある。そういったところまでは考えられないため、出られた方が、夏などに来た時に、三郷地区の友達などを呼び、三郷の本当の魅力を知ってもらい、そこから何かが生まれてくるのが一番よい。あまりにも大きな目標では駄目であるため、まずは三郷の魅力を、何でもよいからあちこちから吸い上げる。農地改革も始まるため、そうなるともた違った面も出てくる。それにより、この三郷がどのように変わっていくのか。三郷の魅力を今のうちに探して発信し、呼んで来た方がよい。

【山口会長】

要するに、三郷の魅力を探してピックアップしたらどうかということか。

【保坂真由美委員】

そのとおり。

【山田委員】

以前に上げた意見と同じだが、やはり三郷の色々なよい面をPRしていけば、ここに住んでみようとする人も出てくるのではないか。また、問題がたくさんあるため、問題を絞って一つずつ解決した方がよい。

【横尾委員】

皆さんの意見や考えは、資料No.2に要約されていると思う。これらのある程度整理し、皆さん大変忙しいだろうが、検討委員のようなものを作り、それらの人が調べたものを会議で発表するのがよい。

【山口会長】

資料No.2をまとめるのか。

【横尾委員】

そのとおり。今までの皆さんの意見は、他にもあるかもしれないが、資料にまとめてあり、これを全部解決するのは不可能に近いので、先ほど尾崎委員から何か一つでもと話があったが、一番大事なものを絞り、それについて委員会を設け深く掘り下げていく。もう少し研究してみるべきではないか。

【山口会長】

それは12名の地域協議会委員の中から何人か絞り込み、検討委員会を作るとい

うことか。

【横尾委員】

そう。大事なものは優先順位を付けること。そうしないと、これらを全部解決することは不可能に近い。共通する意見をまとめ、それらを委員で検討し、掘り下げて研究してはどうか。毎回同じ話になってしまう気がする。それで、あちこち手を付けても、結局何も得られず理想論に走る。例えば、学校について考えれば、子育てをしている方は小学校に近いところに住みたいというのは当然分かっている。ある程度高齢になれば、病院が近いというキャッチフレーズが有効。デイホームもある。そのようなことを売りにできる。そのようなことを、委員会を作って検討したらどうか。焦らなくてよい。これは今日明日の問題ではない。

【山口会長】

前日も言ったとおり、決して結論を今出すという問題ではない。出すことができればよいが、そんな小さな問題ではない。要するに、将来に渡ってどうするのがよいか。当然、10年経てば変わるかも知れない。だが、このような話をしておいて、いよいよとなった時に慌てることのないよう、ある程度資料的なものを準備していた方がよいのではないかということで、皆さんから意見を出してもらっている。結論が出れば一番よいが、決して出るものではない。ただ、三郷区としてこのような魅力があるため、今後市内・市外にPRすればよいということであれば、それはそれでよい。

【横尾委員】

例えば、勤め先がないとなると、どの範囲がよいかは分からないが、近くにある企業も調べなければいけない。そのようなことを、委員を決め、研究すべきことを決めてやった方がよい。でないといつも同じ話になってしまう気がする。

【山口会長】

地域協議会全体でするのではなく、何人か検討委員を決め、地域協議会の時に調べた結果を発表し、全体で協議するという事だろう。

【竹内副会長】

皆さんの意見をまとめると、資料No.1の内容になるのだろう。横尾委員から話があった形の中で、まずは三郷区の現状を発信できれば。資料にあるPR誌とまでは

いかないが、三郷というのはこのような組織があり、このようなことをしていると、まちづくり振興会的なところから発信するようなことを、コラボしながら、できることから動いていく。そこに、病院が近い、国分寺が出る可能性のある歴史的なエリアがある、お米が美味しいなど、色々なことを掲載し、三郷区はこのようなところというのを外に知らしめて、その魅力に同感した人たちが、先ほどの佐藤委員のとおり、「三郷区っていいな、じゃあそこに家を建てたいな」となる。私も東稲塚の件を確認したが、結構大きな土地で、家2軒くらい建てられるのではないかと。東稲塚は確かそれを入れて3世帯増えている。うちの町内会も2軒増えている。三郷区というのはこんなところだということを発信できる機関誌的なものを、我々協議会からでもよいが発信していくと、違ったスタンスでできるかと思う。稲増の団地の話もあったが、桜町もまだ土地が空いている。農地が残っているところもあり、住宅を建てるスペースも十分残っている。新たに100戸、200戸の団地を造成するには土地がない。圃場整備の話も進んでおり、宅地以外の造成地となると、三郷区の中ではまずない。先ほど農振の話もあったが、なかなか難しい問題。身近なところから手を付けていくのがよい。

【山口会長】

インターネットのブログなどに魅力を載せる。そうすると、誰がやるかという問題が出てくる。

【横尾委員】

竹内副会長から意見のあった発信する部門や、発信ばかりしても受け入れ体制ができていないと駄目であるため、ここに空き家があるなど、受け入れ体制を担当する部門。私が話したのはそのようなこと。

【山口会長】

空き家の提供となると、個人的な財産になる。専門の不動産業者の方であれば、許認可を持っているためできる。

【横尾委員】

農振法から外れているところを調べることは可能か。

【竹内副会長】

三郷ではそのような農地がもうない。全て圃場整備の中に入れた。

【横尾委員】

うちの土地の中には、圃場整備は適応だが農振法は外れる話になっている土地もある。そのようなところもあるのだろう。

【竹内副会長】

ある。

【山口会長】

調べたことを資料にする場合、公表するかどうかは個人の財産など色々な制約があるため慎重にしなければいけないが、調べておくことはまずくないのでは。

【保坂副会長】

前日も話したとおり、何か一つでもできればよい、一歩進めたいという思いはずっとある。今までみんなで話をして、たくさん学習したり人の意見を聞いたりして、何となく三郷のよさも分かり、どのような形で進めていったらよいか、大まかなイメージはそれぞれ湧いてきたと思う。その中で、それぞれ興味関心のあることは微妙に違う。検討委員で集まるという形になると、一部の人たちで動くことになる。例えば、空き地や空き家の関係、就職口、PRなど、同じ興味関心のある人が2～3人くらいで集まり、具体的にどう進めるか検討すれば、皆がそれぞれ参加でき、より具体的な方法が見つかるのではないか。せっかく皆さんでいっぱい勉強して、資料にもまとめている。たくさんいると、どうしてもおんぶに抱っこになってしまう。2人か多くても3人くらいで、相談しながら進めるのがよい。

【二野委員】

基本的には、人口をどうやって増やすかが目標、目的である。それには、何が魅力なのか。私は長年住んでいて、よそで住んだことがない。昔から何十年も同じところに住んでいると、どこが魅力なのか見えないのではないのか。別の地域から人が入ってきているところもある。そのような方々に聞いてみるのも一つ。地元ではない人から、「よそはこうだったが、こちらに来たらこうだ」という意見も取り入れていかないといけない。自分で住んでいて、三郷区の何が魅力かと考えると、交通の便はそんなに悪くない。ラッシュアワーはないため目的地にはだいたい時間どおりに行ける。病院やスーパーは近いというほどではない。歩いても行ける距離ではないため、中途半端。ただ災害はない。山沿いでもないし、海沿いでもない。その

辺が魅力かと思う。インターチェンジや新幹線の駅のすぐそばなど、際立ってよいところはない。

【山口会長】

今後どのように進めるか、協議したい。

横尾委員と保坂副会長から、部会を設けてテーマを絞り込んで話し合ったらよいという意見が出た。二野委員からは、他から来た人たちの意見を聞くのがよいのではないかと。魅力については、皆さんで調べてもらうことも必要。

私から提案がある。28区の中で少子化対策や人口減少に取り組んでいる区が近隣にある。そのような方々と意見交換してもよいと考えた。私たち12人で話したこと以外に、「うちの地区ではこのようなことを話して、このようなことがある」というのが出てくるかもしれない。また、話し合ってきた内容を資料提供して、お互いに情報交換するのも一つの手。その次に、部会を設けて検討するのもよい。

部会を設けることと、意見交換をする区については、正副会長に一任でよいか諮り、委員全員の了承を得る。

今後どうするかは、次回の協議会で話をする。三郷地区公民館に関する説明会でも、何か出てくるかもしれない。それらを参考にしながら皆さんと進めていきたい。次の協議会で結論が出るものではないと思う。任期の間にまとめればよい。この資料については、それぞれ目を通して勉強しておいてほしい。

—その他—

【山口会長】

10月9日（火）午後7時から「三郷地区公民館に関する説明会」を開催する。説明会の開催にあたり、説明会の目的や内容について改めて説明する。三郷地区公民館の老朽化については、以前から地域でも問題になっており、地域協議会においても、「三郷区における高齢者支援の取組について」を自主審議した際に、耐震構造やトイレについて問題がある等、委員から意見が出されていた。ひとまずは市の動向を注視しようと考えていたが、一度市の考えを聞く機会を設けた方がよいと思い、説明会を開催することとした。町内会長協議会の平田会長にも出席の案内をしてあ

り、各町内会長からも説明会に出席いただく予定である。当日は、市担当課からの説明を聞いた後、質疑応答を行うため、考えておいてほしい。

ただいまの説明について、質疑を求めるがなし。

ぜひ都合を付けて出席してもらいたい。市の方に聞く機会は何回もない。人口減少について話している中で、このような施設の話を話すのもよいと思う。10月9日に結論が出るとは思っていないが、市の考えを聞くのもよいかと思う。

—次第4 事務連絡—

【山口会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・三郷地区公民館に関する説明会

10月9日（火）午後7時～ 三郷地区公民館

- ・第5回地域協議会

11月27日（火）午後6時30分～ 三郷地区公民館

- ・当日配布資料

高田区地域協議会意見書（写し）

ウイズじょうえつからのおたより

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。